令和6年度　道東地区教育研究所所員研修会

子ども支援研究グループ
研究発表

齋藤　政人（釧路市立幣舞中学校）
髙橋　真理子（釧路市立愛国小学校）
髙橋　円（釧路市立鳥取中学校）
谷口　友彰（釧路市立鳥取西中学校）
石原　明香（釧路市立青葉小学校）
藤原　崇（釧路市立昭和小学校）
柴田　題寛（釧路市立景雲中学校）

＜　グループの研究目的　＞

いじめ・不登校
個に応じた指導

子ども支援のあり方について実践を蓄積し、その成果を発表

＜　令和５年度　研究テーマ　＞

不登校児童生徒に対する
日常の支援の在り方

釧路市ＨＰ　釧路教育研究センター発行資料
「研究紀要第１９５号」

令和４年度　文部科学省調査データ

不登校の児童生徒は･･･

小学校

２クラスに１人

中学校

１クラスに２人

若手の先生

自分の学級で不登校児童生徒がいる場合、どのように対応したらいいのだろうか？不安だなぁ･･･。

若手の先生をターゲットに

基本編

日常の心構え編

実践事例編

基本編

不登校の定義

不登校の現状把握

不登校の状態評価

学校における
対応の具体

基本編

＜不登校の状態評価＞
長期欠席・不登校の児童生徒への対応は一律ではなく、個々の児童生徒の状態に応じて、変えていく必要がある。

児童生徒の状態を評価

対応　目標

状態		対応の流れ
状態 0	ほぼ平常に登校している	**学校の対応** ・教育相談　・家庭訪問 ・保護者面談　・別室登校等 ・時差登校　・SC※1の活用 ・ケース会議の実施 ※児童生徒と保護者に支援の選択肢を提案しつつ、登校の可能性を探る。 ※児童生徒自身に選択させる。
状態 1	遅刻・欠席がしばしばある 保健室通いが多い	
状態 2	保健室・別室登校 欠席が増えている	**教育委員会との情報共有** **釧路市教育委員会教育支援課** **児童生徒・保護者面談** □こども家庭支援センター ・生活リズムを整えることを希望する場合 □教育支援センター（適応指導教室） まなびや城山・鳥取 ・個別での学びを希望する場合 **SSW※2など関係機関との連携** □家庭支援 □福祉サイドとの連携
状態 3	学校以外の施設への定期的な参加ができている	
状態 4	家庭内では安定しているが外出は難しい	
状態 5	部屋に閉じこもり、家族ともほとんど顔を合わせない	**学校の継続的な関わり** ・家庭訪問　・保護者面談 ・放課後登校　・別室登校 ・オンライン授業　・オンライン支援

釧路市教育委員会「不登校対応リーフレット」より

日常の心構え編

みんなが安心して
生活できる学級づくり

魅力的な授業づくり

情報共有

保護者との連携

日常の心構え編

＜中学校の実践例＞
情報共有の場を
大切にした校内体制

誰一人見逃さない
担任一人に背負わせない

①毎朝の学年打ち合わせの中で、欠席生徒や気になる生徒の情報交流を行う。

②２週に１回の学年打ち合わせの中で、欠席生徒や気になる生徒の現状と対応の確認を行う。

③月に１度の学年代表者会議の中で、全校周知の必要のある生徒の報告を行う。

④職員室内の欠席黒板を活用し、生徒の欠席状況を全職員で把握できるようにする。

実践事例編

実際に小中学校で取り組まれてきた事例を使って各学校の実践内容を紹介

自分の学校に取り入れやすい、参考にしやすい

★実践事例編３★

＜　校内支援体制による対応②（小学校中学年）　＞

【児童の実態】

中学年通常学級の児童。入学時より１週間に１～２日欠席する傾向が見られた。欠席理由は鼻水，熱，咳，腹痛など体調不良が多い。登校すると元気に活動する様子が見られる。

【家庭状況】

両親・姉の４人家族。姉は不登校傾向である。母親は子どもの欠席が多いことを理由に仕事を辞め，子どもの欠席の時は必ず連絡をくれる。母親は，子どもの顔色をうかがって生活している様子で，子どもが体調が悪いと言っている時，どうしたら良いのか対応に困っている。

【具体的な対応】

《　担　任　》
- 校内のケース会議で本人の実態を報告し，今後の対応策を相談した。
- 保護者と面談を行った。
- 本人と面談し，不安な気持ちを傾聴した。
- 学級ではいつでも登校しやすい環境・集団づくりに努めた。

《特別支援 Co・通級指導担当》
- ケース会議の開催を決定した。
- 今後の対応策をとりまとめた。
- 保護者から欠席連絡がない場合は，特別支援 Co か担任が保護者へ連絡した。
- 担任と保護者との面談に同席した。
- 通級指導教室を利用し，情緒の安定を図った。
- 登校できた際には，色々な先生方が当該本人に話しかけるようにし，安心して関わることができる大人を増やしていった。

《ケース会議では》
- 保護者に伝える内容について検討した。
- 本人がどのような体調のときに欠席させるのかを保護者と共有することとした。
- 学校で過ごすことが難しい場合は早退することを本人，保護者と約束することとした。
- 本人との面談内容を検討し，不安なことや心配なことを聞くことを決めた。
- 通級指導教室の利用について検討した。

通級指導教室

【成果・今後に向けて】

欠席の基準を保護者と相談して決めたことで，登校できる日が増えた。また，担任，通級指導担当が丁寧に本人の話を聞くことで，気持ちの安定を図ることができてきている。本人がクラスの中でよりよく生活するため，ソーシャルスキルトレーニングを行う必要性が出てきたため，今後，通級指導教室を活用し社会性をさらに身に付けるようにしていく。

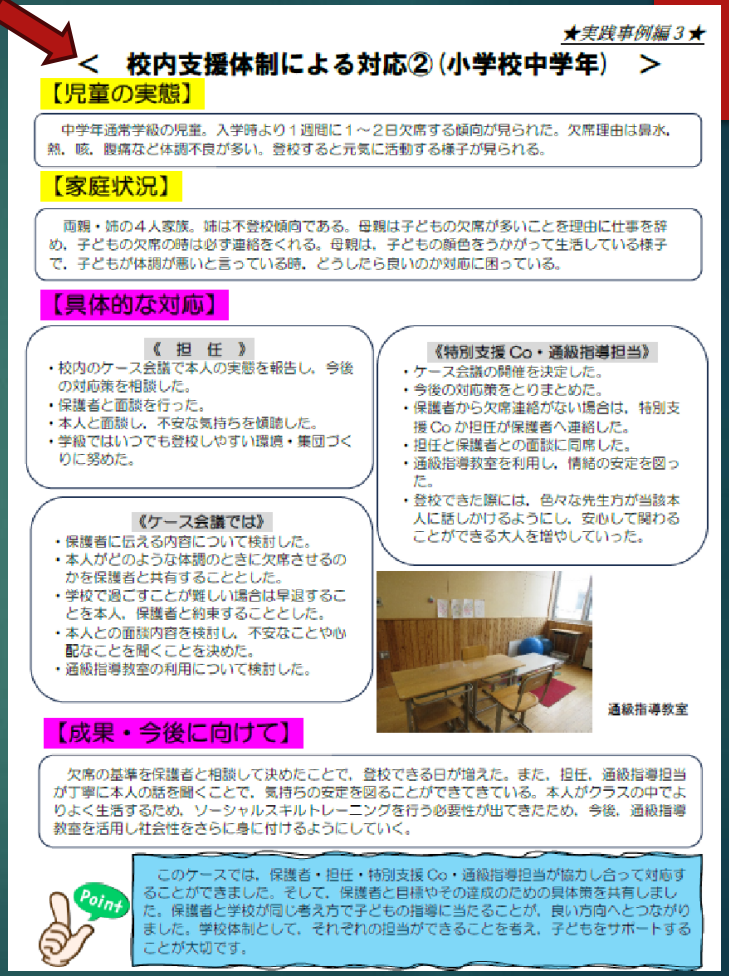
Point

このケースでは，保護者・担任・特別支援 Co・通級指導担当が協力し合って対応することができました。そして，保護者と目標やその達成のための具体策を共有しました。保護者と学校が同じ考え方で子どもの指導に当たることが，良い方向へとつながりました。学校体制として，それぞれの担当ができることを考え，子どもをサポートすることが大切です。

実践事例編

＜タイトル＞
どのような事例なのかを端的にまとめ、括弧書きでどの年齢段階なのかわかるようにして、参照しやすいように工夫

- 小学校低、中、高学年
- 中学校１、２、３年



★実践事例編３★

＜　校内支援体制による対応②（小学校中学年）　＞

【児童の実態】

中学年通常学級の児童。入学時より１週間に１～２日欠席する傾向が見られた。欠席理由は鼻水，熱，咳，腹痛など体調不良が多い。登校すると元気に活動する様子が見られる。

【家庭状況】

両親・姉の４人家族。姉は不登校傾向である。母親は子どもの欠席が多いことを理由に仕事を辞め，子どもの欠席の時は必ず連絡をくれる。母親は，子どもの顔色をうかがって生活している様子で，子どもが体調が悪いと言っている時，どうしたら良いのか対応に困っている。

【具体的な対応】

《担　任》
- 校内のケース会議で本人の実態を報告し，今後の対応策を相談した。
- 保護者と面談を行った。
- 本人と面談し，不安な気持ちを傾聴した。
- 学級ではいつでも登校しやすい環境・集団づくりに努めた。

《特別支援 Co・通級指導担当》
- ケース会議の開催を決定した。
- 今後の対応策をとりまとめた。
- 保護者から欠席連絡がない場合は，特別支援 Co か担任が保護者へ連絡した。
- 担任と保護者との面談に同席した。
- 通級指導教室を利用し，情緒の安定を図った。
- 登校できた際には，色々な先生方が当該本人に話しかけるようにし，安心して関わることができる大人を増やしていった。

《ケース会議では》
- 保護者に伝える内容について検討した。
- 本人がどのような体調のときに欠席させるのかを保護者と共有することとした。
- 学校で過ごすことが難しい場合は早退することを本人，保護者と約束することとした。
- 本人との面談内容を検討し，不安なことや心配なことを聞くことを決めた。
- 通級指導教室の利用について検討した。

通級指導教室

【成果・今後に向けて】

欠席の基準を保護者と相談して決めたことで，登校できる日が増えた。また，担任，通級指導担当が丁寧に本人の話を聞くことで，気持ちの安定を図ることができてきている。本人がクラスの中でよりよく生活するため，ソーシャルスキルトレーニングを行う必要性が出てきたため，今後，通級指導教室を活用し社会性をさらに身に付けるようにしていく。

Point

このケースでは，保護者・担任・特別支援 Co・通級指導担当が協力し合って対応することができました。そして，保護者と目標やその達成のための具体策を共有しました。保護者と学校が同じ考え方で子どもの指導に当たることが，良い方向へとつながりました。学校体制として，それぞれの担当ができることを考え，子どもをサポートすることが大切です。

実践事例編

＜児童生徒の実態・家族構成＞
休みはじめの状況、学校での様子や家族構成など

本人特定されないように内容を一部変更して記載

★実践事例編３★

＜　校内支援体制による対応②（小学校中学年）　＞

【児童の実態】

中学年通常学級の児童。入学時より１週間に１～２日欠席する傾向が見られた。欠席理由は鼻水，熱，咳，腹痛など体調不良が多い。登校すると元気に活動する様子が見られる。

【家庭状況】

両親・姉の４人家族。姉は不登校傾向である。母親は子どもの欠席が多いことを理由に仕事を辞め，子どもの欠席の時は必ず連絡をくれる。母親は，子どもの顔色をうかがって生活している様子で，子どもが体調が悪いと言っている時，どうしたら良いのか対応に困っている。

【具体的な対応】

《　担　任　》
- 校内のケース会議で本人の実態を報告し，今後の対応策を相談した。
- 保護者と面談を行った。
- 本人と面談し，不安な気持ちを傾聴した。
- 学級ではいつでも登校しやすい環境・集団づくりに努めた。

《特別支援 Co・通級指導担当》
- ケース会議の開催を決定した。
- 今後の対応策をとりまとめた。
- 保護者から欠席連絡がない場合は，特別支援 Co か担任が保護者へ連絡した。
- 担任と保護者との面談に同席した。
- 通級指導教室を利用し，情緒の安定を図った。
- 登校できた際には，色々な先生方が当該本人に話しかけるようにし，安心して関わることができる大人を増やしていった。

《ケース会議では》
- 保護者に伝える内容について検討した。
- 本人がどのような体調のときに欠席させるのかを保護者と共有することとした。
- 学校で過ごすことが難しい場合は早退することを本人，保護者と約束することとした。
- 本人との面談内容を検討し，不安なことや心配なことを聞くことを決めた。
- 通級指導教室の利用について検討した。

通級指導教室

【成果・今後に向けて】

欠席の基準を保護者と相談して決めたことで，登校できる日が増えた。また，担任，通級指導担当が丁寧に本人の話を聞くことで，気持ちの安定を図ることができてきている。本人がクラスの中でよりよく生活するため，ソーシャルスキルトレーニングを行う必要性が出てきたため，今後，通級指導教室を活用し社会性をさらに身に付けるようにしていく。

Point

このケースでは，保護者・担任・特別支援 Co・通級指導担当が協力し合って対応することができました。そして，保護者と目標やその達成のための具体策を共有しました。保護者と学校が同じ考え方で子どもの指導に当たることが，良い方向へとつながりました。学校体制として，それぞれの担当ができることを考え，子どもをサポートすることが大切です。

実践事例編

＜具体的な対応＞
組織としてどのように対応したのかが分かるように「担任」「特別支援コーディネーター」「通級指導担当」などの役割と関わりを記載

校内ケース会議での検討内容、写真で通級教室の配置や工夫なども紹介

★実践事例編３★

＜　校内支援体制による対応②（小学校中学年）　＞

【児童の実態】

中学年通常学級の児童。入学時より１週間に１～２日欠席する傾向が見られた。欠席理由は鼻水，熱，咳，腹痛など体調不良が多い。登校すると元気に活動する様子が見られる。

【家庭状況】

両親・姉の４人家族。姉は不登校傾向である。母親は子どもの欠席が多いことを理由に仕事を辞め，子どもの欠席の時は必ず連絡をくれる。母親は，子どもの顔色をうかがって生活している様子で，子どもが体調が悪いと言っている時，どうしたら良いのか対応に困っている。

【具体的な対応】

《担　任》
- 校内のケース会議で本人の実態を報告し，今後の対応策を相談した。
- 保護者と面談を行った。
- 本人と面談し，不安な気持ちを傾聴した。
- 学級ではいつでも登校しやすい環境・集団づくりに努めた。

《特別支援 Co・通級指導担当》
- ケース会議の開催を決定した。
- 今後の対応策をとりまとめた。
- 保護者から欠席連絡がない場合は，特別支援 Co か担任が保護者へ連絡した。
- 担任と保護者との面談に同席した。
- 通級指導教室を利用し，情緒の安定を図った。
- 登校できた際には，色々な先生方が当該本人に話しかけるようにし，安心して関わることができる大人を増やしていった。

《ケース会議では》
- 保護者に伝える内容について検討した。
- 本人がどのような体調のときに欠席させるのかを保護者と共有することとした。
- 学校で過ごすことが難しい場合は早退することを本人，保護者と約束することとした。
- 本人との面談内容を検討し，不安なことや心配なことを聞くことを決めた。
- 通級指導教室の利用について検討した。

通級指導教室

【成果・今後に向けて】

欠席の基準を保護者と相談して決めたことで，登校できる日が増えた。また，担任，通級指導担当が丁寧に本人の話を聞くことで，気持ちの安定を図ることができてきている。本人がクラスの中でよりよく生活するため，ソーシャルスキルトレーニングを行う必要性が出てきたため，今後，通級指導教室を活用し社会性をさらに身に付けるようにしていく。

Point

このケースでは，保護者・担任・特別支援 Co・通級指導担当が協力し合って対応することができました。そして，保護者と目標やその達成のための具体策を共有しました。保護者と学校が同じ考え方で子どもの指導に当たることが，良い方向へとつながりました。学校体制として，それぞれの担当ができることを考え，子どもをサポートすることが大切です。

実践事例編

＜成果・今後に向けて＞
対応後の児童生徒の様子や変化、今後の方針などを記載

全てのケースにおいて解決はなく、継続的な取り組みが必要

★実践事例編３★

＜　校内支援体制による対応②（小学校中学年）　＞

【児童の実態】

中学年通常学級の児童。入学時より１週間に１～２日欠席する傾向が見られた。欠席理由は鼻水，熱，咳，腹痛など体調不良が多い。登校すると元気に活動する様子が見られる。

【家庭状況】

両親・姉の４人家族。姉は不登校傾向である。母親は子どもの欠席が多いことを理由に仕事を辞め，子どもの欠席の時は必ず連絡をくれる。母親は，子どもの顔色をうかがって生活している様子で，子どもが体調が悪いと言っている時，どうしたら良いのか対応に困っている。

【具体的な対応】

《　担　任　》
- 校内のケース会議で本人の実態を報告し，今後の対応策を相談した。
- 保護者と面談を行った。
- 本人と面談し，不安な気持ちを傾聴した。
- 学級ではいつでも登校しやすい環境・集団づくりに努めた。

《特別支援 Co・通級指導担当》
- ケース会議の開催を決定した。
- 今後の対応策をとりまとめた。
- 保護者から欠席連絡がない場合は，特別支援 Co か担任が保護者へ連絡した。
- 担任と保護者との面談に同席した。
- 通級指導教室を利用し，情緒の安定を図った。
- 登校できた際には，色々な先生方が当該本人に話しかけるようにし，安心して関わることができる大人を増やしていった。

《ケース会議では》
- 保護者に伝える内容について検討した。
- 本人がどのような体調のときに欠席させるのかを保護者と共有することとした。
- 学校で過ごすことが難しい場合は早退することを本人，保護者と約束することとした。
- 本人との面談内容を検討し，不安なことや心配なことを聞くことを決めた。
- 通級指導教室の利用について検討した。

通級指導教室

【成果・今後に向けて】

欠席の基準を保護者と相談して決めたことで，登校できる日が増えた。また，担任，通級指導担当が丁寧に本人の話を聞くことで，気持ちの安定を図ることができてきている。本人がクラスの中でよりよく生活するため，ソーシャルスキルトレーニングを行う必要性が出てきたため，今後，通級指導教室を活用し社会性をさらに身に付けるようにしていく。

このケースでは，保護者・担任・特別支援 Co・通級指導担当が協力し合って対応することができました。そして，保護者と目標やその達成のための具体策を共有しました。保護者と学校が同じ考え方で子どもの指導に当たることが，良い方向へとつながりました。学校体制として，それぞれの担当ができることを考え，子どもをサポートすることが大切です。

実践事例編

＜Ｐｏｉｎｔ＞
事例全体の総括と関わった
先生方の感想や意見を記載

若手の先生に向けた
ワンポイントアドバイス

★実践事例編３★

＜　校内支援体制による対応②（小学校中学年）　＞

【児童の実態】

中学年通常学級の児童。入学時より１週間に１～２日欠席する傾向が見られた。欠席理由は鼻水，熱，咳，腹痛など体調不良が多い。登校すると元気に活動する様子が見られる。

【家庭状況】

両親・姉の４人家族。姉は不登校傾向である。母親は子どもの欠席が多いことを理由に仕事を辞め，子どもの欠席の時は必ず連絡をくれる。母親は，子どもの顔色をうかがって生活している様子で，子どもが体調が悪いと言っている時，どうしたら良いのか対応に困っている。

【具体的な対応】

《　担　任　》
- 校内のケース会議で本人の実態を報告し，今後の対応策を相談した。
- 保護者と面談を行った。
- 本人と面談し，不安な気持ちを傾聴した。
- 学級ではいつでも登校しやすい環境・集団づくりに努めた。

《特別支援 Co・通級指導担当》
- ケース会議の開催を決定した。
- 今後の対応策をとりまとめた。
- 保護者から欠席連絡がない場合は，特別支援 Co か担任が保護者へ連絡した。
- 担任と保護者との面談に同席した。
- 通級指導教室を利用し，情緒の安定を図った。
- 登校できた際には，色々な先生方が当該本人に話しかけるようにし，安心して関わることができる大人を増やしていった。

《ケース会議では》
- 保護者に伝える内容について検討した。
- 本人がどのような体調のときに欠席させるのかを保護者と共有することとした。
- 学校で過ごすことが難しい場合は早退することを本人，保護者と約束することとした。
- 本人との面談内容を検討し，不安なことや心配なことを聞くことを決めた。
- 通級指導教室の利用について検討した。

通級指導教室

【成果・今後に向けて】

欠席の基準を保護者と相談して決めたことで，登校できる日が増えた。また，担任，通級指導担当が丁寧に本人の話を聞くことで，気持ちの安定を図ることができてきている。本人がクラスの中でよりよく生活するため，ソーシャルスキルトレーニングを行う必要性が出てきたため，今後，通級指導教室を活用し社会性をさらに身に付けるようにしていく。

このケースでは，保護者・担任・特別支援 Co・通級指導担当が協力し合って対応することができました。そして，保護者と目標やその達成のための具体策を共有しました。保護者と学校が同じ考え方で子どもの指導に当たることが，良い方向へとつながりました。学校体制として，それぞれの担当ができることを考え，子どもをサポートすることが大切です。

＜　令和６年度　研究テーマ　＞

児童生徒が将来において社会的な自己実現ができるような資質・能力・態度を形成するように働きかける教育相談の在り方

令和４年１２月に出された生徒指導提要

そもそも「教育相談」とは何なのか、新しい生徒指導提要で内容を確認しよう！

「教育相談」と聞いて何をイメージしますか？

グループでの交流

各校でのインタビュー

- 小・中学校で「教育相談」の実施方法やイメージが大きく違う。
- 学校によって取り組み方が違う。
- 児童生徒への教育相談、保護者への教育相談ともに課題を抱えている先生が多い。
- 様々な工夫をしている先生がいる。

今後の研究の方向性を決めるために･･･

日本全国の研究事例を調査

市内小・中学校の先生方へアンケート調査

★先生方のニーズを正確に把握

研究のゴールは･･･

・学校で取り入れたくなる実践事例

・学級で活用したくなる教育相談の技術・方法

・場所の設定や相談環境のつくり方等

★集約し「研究紀要第１９６号」として発行

ご清聴
ありがとうございました。